クォータリーレポート（６月・９月・12 月・３月の年４回発行）

気仙沼・南三陸だより

第 19 号　平成 28 年 12 月
発行：気仙沼地方振興事務所

気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◇　主な内容　◇◆

○気仙沼高等技術専門校：平成 28 年度第２回オープンキャンパスを開催しました
○気仙沼保健福祉事務所：100 歳高齢者を訪問しました
○水産技術総合センター気仙沼水産試験場：「浜と水試の情報交換会」を開催しました
○本吉農業改良普及センター：担い手育成プロジェクトチーム現地検討会を開催しました　他
○気仙沼地方振興事務所：民泊研修会～安全についてのワークショップ～を開催しました　他

平成 28 年度第２回オープンキャンパスを開催しました（気仙沼高等技術専門校）

11 月６日，当校において第２回オープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは，高校生や一般の方々を対象に，身近に技術を学べて就職に有利な資格が取得できる公共の職業訓練校の PR を目的に，毎年開催しているものです。

当日は，25　人の来校があり，自動車整備科，オフィスビジネス科，溶接科の概要と平成29年度訓練生募集スケジュールについて説明を行いました。

また，自動車整備科では，学生自らが企画・準備をしたパワーウィンドウ機構のカットモデルによる動作説明，エンジンの組立など，オフィスビジネス科ではパソコンを使用してのメッセージカードの作成と簿記，溶接科ではガス切断器を使用した鉄板の切断などをそれぞれ体験していただきました。

自動車整備科（エンジン組立体験）

オフィスビジネス科（メッセージカード作成）

溶接科（ガス切断器による鉄板の切断）

燃料電池自動車（展示説明，同乗体験）

このほか，県が所有する FCV（燃料電池自動車）「ホンダ　クラリティ　フューエルセル」の展示と同乗体験を実施し，最先端の自動車技術の PR も行いました。

来年度のオープンキャンパスも，より魅力ある展示を企画し，皆さまの来校をお待ちしています。

100 歳高齢者を訪問しました
（気仙沼保健福祉事務所）

9月 15 日は老人の日，同日から9月 21 日までは老人週間とされており，期間中は「みんなで築こう安心と活力ある健康長寿社会」のスローガンの下，様々な敬老行事等が行われました。

当所でも，県の事業として老人週間内に，今年度中に新百歳となられる方 19 名を訪問し，多年にわたり社会の発展に寄与されてきたことへの感謝の念をこめて，国と県からの祝状とお祝い品をお届けに伺いました。

長寿の理由として食事や水を挙げる方が多く，日頃の生活の大切さをあらためてお教えいただくとともに周囲の方の暖かい支援を感じることができました。

（訪問の様子）

「浜と水試の情報交換会」を開催しました
（水産技術総合センター気仙沼水産試験場）

10 月 20 日，「平成 28 年度気仙沼水産試験場「浜と水試の情報交換会」～養殖生産と環境～」を開催しました。

この情報交換会は，管内の生産者や水産関係団体等に当場の試験研究成果を紹介し，地域水産業の復興に向けて意見交換を行うことを目的に開催しており，今回は新庁舎の大会議室で初の開催となりました。

当日は，生産者はじめ岩手県，気仙沼市，南三陸町，大学，地元企業から 65 名の参加があり，東京大学大気海洋研究所の小松輝久准教授から「志津川湾の筏削減効果～養殖生産環境～」と題した講演をいただくとともに，ワカメ種苗生産をはじめとする当場の取組を話題提供しました。

震災後，管内では自然環境に大きな負担をかけず地域社会にも配慮した養殖業を目指す取組が進んでいます。今回は，科学的なデータに基づいた養殖施設削減効果を知ることで，養殖生産と環境の関係について理解を深め，復興に向けて意識を新たにする機会となりました。

（「浜と水試の情報交換会」の様子）

担い手育成プロジェクトチーム現地検討会を開催しました（本吉農業改良普及センター）

９月７日，気仙沼・本吉地域農林業振興推進協議会の担い手育成プロジェクトチームによる現地検討会を開催しました。

本チームは，県や JA，市町村などの関係機関によって構成する気仙沼・本吉地域農林業振興推進協議会の中で，震災後のほ場整備地区を中心とした担い手組織や後継者，新規就農者や新規参入者など幅広い「担い手」への支援方法を検討しています。

現地検討会では，新規参入者，地域内新規就農者，新規雇用就農者といった，立場の異なる担い手の方に参加いただき，ほ場を視察しながら現在の経営状況や就農後の課題，求められる支援などの意見交換を行いました。

実際に営農し，さまざまな課題に直面している担い手と直接話すことによって，住宅支援のあり方や労働力確保など，新たに見えてくる課題もあり，多くの意見が飛び交う有意義な現地検討会となりました。

（現地検討会の様子）

第２回被災農地等の土づくり推進プロジェクト現地調査を開催しました（本吉農業改良普及センター）

９月７日，気仙沼・本吉地域農林業振興推進協議会の被災農地等の土づくり推進プロジェクトチームによる第２回現地調査を実施しました。

本チームは，上記協議会の中で，震災後の被災水田等の復旧にあたり，客土や砂質土壌により肥沃度が低下した農地に対する技術対策を中心に検討しています。

現地調査では，南三陸町でねぎの排水対策を比較するために設置した試験ほ場を訪れ，排水対策の違いによるねぎの生育状況を確認しました。本年は８月から度重なる台風の通過や前線の影響で降水量が多く，ねぎ栽培にとっては厳しい状況となっています。それでも排水対策の違いがねぎの生育差となって現れており，参加したチーム員で有効な排水対策について意見交換することができました。

試験ほ場では収穫まで継続的に調査を行い，排水対策の効果を実証する予定です。

（現地調査の様子）

宮城県オリジナルりんご品種「サワールージュ」の加工研修会が開催されました！（本吉農業改良普及センター）

宮城県で育成された唯一のりんごをご存じですか？

それは,「サワールージュ」という名前のりんごです。

宮城県農業・園芸総合研究所で育成され，スイーツの材料として，いま売り出し中です。特徴は，酸っぱいこと。また，酸っぱいりんごの代名詞となっている「紅玉」と比べて，収穫時期が3週間程度早く，病害虫や生理障害が出にくいため栽培しやすいことなども特徴となっています。

その特徴を活かしたスイーツを考案するための第一段の取り組みとして，9月 27 日，JA 南三陸果樹生産部会主催による加工研修会が開催されました。当日は，宮城県で初めて野菜ソムリエの資格を取得された斉藤緑里先生を講師に迎え，JA 南三陸農産物直売所「菜果好（なかよし）」の加工部会の方々とともに3種類のジャムを作りました。

写真の左から,「皮ごとすりおろして作ったジャム」,「皮を剥いて果肉だけで作ったジャム」,「皮の煮汁と果肉で作ったジャム」になります。

参加者全員で試食し，どのジャムが1番サワールージュの特徴が出ていたか話し合った結果,「皮ごとすりおろして作ったジャム」に決まりました。

このジャムは，10 月８日に JA 南三陸農産物直売所「菜果好」で開催された「サワールージュの果実販売イベント」でアップルパイや生の果実と共に試食・販売されました。また，当日は，仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台・宮城観光 PR 担当課長である「むすび丸」が応援に駆け付け， イベントを盛り上げました。

（サワールージュの果実）

（サワールージュのジャム）

南三陸ねぎ料理レシピコンテストの審査会と表彰式が開催されました！
（本吉農業改良普及センター）

気仙沼･南三陸地域では，東日本大震災の津波で被災した農地の復旧にあわせ，震災復興に向け，新たなねぎ産地を目指し地域で取り組んでいます。

このねぎの消費拡大を図り，産地の活性化を後押しするため，気仙沼･南三陸産のねぎを使ったアイデアレシピを募集し，発信していくことでねぎ料理の普及を図る南三陸ねぎ料理レシピコンテストを開催しました。

主催は，気仙沼･本吉地域農林業振興推進協議会で，当センターが中心となり企画･運営を行いました。

10 月６日，応募総数 70 作品の予選が行われ，入賞作品の 10 点が選ばれました。また，入賞作品には選ばれませんでしたが，審査委員長が別に２点を審査員特別賞として選びました。

10 月 25 日には，入賞作品 10 点の本選（試食審査）が行われ，受賞作品が決定しました。引き続き，行われた表彰式では，最優秀賞１名，優秀賞２名，優良賞７名が表彰されました。また，表彰式に先立ち審査員特別賞２名への表彰が行われました。

最優秀賞は気仙沼市の小山武流さん(中学３年)が考案した「南三陸ねぎの宮城県米ミルキーグラタン」。

優秀賞は，石巻市の伊藤靖浩さん(管理栄養士)が考案した「南三陸愛（めぐみ）天丼」と，気仙沼市の熊谷敏男さん(調理人)が考案した「ネギカツサンマ」の２点。

今後，入賞した 10 作品の他，入賞には至らなかった作品も含めレシピ集を作成する予定です。

これらのレシピは一般家庭の他，飲食店，宿泊施設，学校給食などで利用してもらえるように一般公開していく予定です。

なお，入賞したレシピは下記 URL から入手できますので，調理してみてはいかがでしょうか。

URL：http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/minami-negikon.html

（表彰式の様子）

（試食の様子）

民泊研修会～安全についてのワークショップ～を開催しました
（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

9月 14 日，南三陸町ひころの里において，農林漁家民泊受入者等を対象とする研修会を開催しました。

「民泊研修会～安全についてのワークショップ～」と題し，講師には，一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構　花垣紀之氏をお迎えし，民泊中の事故を防止するポイントや，食中毒の予防，事故が起きた場合の対応等について教えていただきました。

参加者は，興味深く講師の話に耳を傾け，具体的な事例の説明がとてもわかりやすかった，今後の参考になったとの感想があり，研修会は大変有意義なものとなりました。

また，後半では，グループに分かれ，民泊のスケジュールに合わせた安全対策を検討するワークショップを実施しました。互いの経験を共有したり，新たな発見があったりと，各グループの話し合いは大いに盛り上がりました。

今後は，気仙沼・南三陸地域において，研修会で学んだ事故防止のポイントを活用し，安全で楽しい農林漁家民泊を継続していくことが期待されます。

（講義の様子）

（ワークショップでの各グループの発表）

ハタケシメジの栽培適期の幅を広げる取組～育苗ハウスの活用による栽培可能性調査～
（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

ハタケシメジの菌床による露地栽培は，管内では5月中旬と8月下旬の年2回が埋め込みの適期です。

本県では，生産者から，「上記以外でも栽培が可能か，極力経費をかけない（冷暖房施設不要）方法で栽培できるかどうか」という要望があったため，気仙沼市内の生産者の協力のもと栽培実証試験を行っています。

栽培場所は育苗ハウスを活用し，埋め込みは秋期の露地栽培適期の1カ月後の9月 28 日と 10 月 13 日の2回に分けて行いました。

写真は，9月　28　日に埋め込んだ試験地における1カ月経過後の発生状況で，大きいものは傘の径4cm，柄は長さ8cm ほどに育っています。

この実証試験結果から，栽培時期の延長が可能になれば，安定的な生産量の確保が図られ，安全でおいしい地元産きのことして定着するとともに，農林家の所得の向上に貢献できるものと期待しています。

（成長過程のハタケシメジ。写真手前の茶色い物は鹿沼土）

気仙沼大川でさけの捕獲が始まりました
（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

今年もさけの季節がやってきました。

気仙沼大川鮭漁業生産組合では，さけ資源の維持増大のため「さけふ化放流事業」を実施しています。今年の初捕獲は，10 月３日に行われ，初日の捕獲数は，136 尾（オス 85 尾，メス 51 尾）で，体長は 70 センチほど，重さは３．５キロほどと例年並みでした。

今年度大川に回帰するさけの主群は，東日本大震災の影響により，稚魚の放流数が震災前と比較し約６割と少ない平成 24 年のものであったことや海水温の影響等により来遊尾数の減少が懸念されています。

このような厳しい状況でありますが，昨年度の稚魚放流数は，震災前の水準まで回復していることから，今年も種卵確保と健苗育成・回帰率向上に向け取り組んでいきます。

（捕獲の様子）

（採卵の様子）

青年漁業士養成講座が開催されました
（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

意欲と能力の優れた地域漁業のリーダーとなる担い手を育成するため，青年漁業士養成講座が８月 29 日，及び９月８日に気仙沼水産試験場を会場に開催されました。

県内の若手漁業者　13　名が参加し，漁業制度や資源管理型漁業等についての必要な知識を習得しました。受講生は，来年６月に宮城県知事により青年漁業士として認定される予定です。

今後，この 13 名の受講生が地域のリーダーとして活躍することが期待されます。

（受講の様子）

県漁協歌津支所青年部及び唐桑支所女性部が全国大会へ出場することになりました
（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

9月6日，東松島市において，第 15 回宮城県青年・女性漁業者交流大会（宮城県，県漁協青年部，県漁協女性部連絡協議会主催）が開催されました。

気仙沼・南三陸管内からは，県漁協歌津支所青年部，県漁協唐桑支所女性部が出場し，日頃の研究や実践活動の成果を発表しました。

審査の結果，青年部・女性部ともに最優秀賞に選出され，来年3月に東京で開催される第 22 回全国青年・女性漁業者交流大会へ出場することになりました。

発表内容は，歌津支所青年部が「磯焼け対策により駆除したウニの有効活用と藻場の再生」，唐桑支所女性部が「未利用資源の有効活用等について」で，これらは現在漁業の現場で課題となっている内容であり，今回の発表は，問題解決に向けた先進的な取り組みであることから，今後，他地域へ波及・拡大されることが期待されます。

（歌津支所青年部の発表の様子）

（唐桑支所女性部発表の様子）

（表彰式の様子）

南三陸米の図画コンクールと新米試食会が行われました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

10 月 22 日，JA南三陸本吉支店で，南三陸地産地消推進協議会の主催による南三陸米の新米試食会と第 12 回南三陸米図画コンクール表彰式が行われました。

「南三陸米」は，JA南三陸管内で栽培された品種「ひとめぼれ」の一等米のみを厳選したブランド米です。今年の南三陸米は，８月の度重なる台風により生育が心配されましたが，品質・味ともに良いお米が収穫されました。

初めに行われた南三陸米図画コンクール表彰式では，「田んぼの生き物」のテーマで，JA南三陸管内の小学生から寄せられた計 80 点の応募作品の中から，18 点の入賞作品が選ばれ，入賞者には，表彰状と南三陸米などの記念品が授与されました。その後の新米試食会では，生産者や販売関係者，図画コンクールの入賞者とその家族も招待され，「南三陸米」の新米，その他管内の野菜や果物などの農産物の美味しさを堪能していました。

（副賞の南三陸米がずっしり…）

（全ての応募作品が展示されました）

鳥インフルエンザ発生に備えた防疫演習を行いました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

10 月 25 日，本吉公民館で「平成 28 年度気仙沼高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ現地地方支部防疫演習」を開催しました。当日は，気仙沼市，南三陸町，養鶏農家，建設業協会及び県の担当者など約 40 名が参加し，鳥インフルエンザ発生時の対応体制や作業内容の確認などを行いました。

前半は，東部家畜保健衛生所，気仙沼地方振興事務所から発生時の対応などについて講習を行いました。後半の演習では，気仙沼保健福祉事務所の防護服の着脱デモンストレーションの後，参加者が防護服を着て，車両消毒や生きた鶏の捕獲，殺処分デモンストレーションなどを実施しました。参加者からは，「初めて防護服を着てみたが，暑かった」，「作業の流れがよく理解できた」，「生きた鶏の捕まえ方のコツがわかった」，といった感想がありました。

今後も，発生時に円滑かつ迅速に対応出来るよう，準備体制を整えてまいります。

（カゴの中から生きた鶏を捕まえて殺処分用の容器に入れているところ。）

産学連携セミナーが開催されました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

9月8日，気仙沼市内で「産学連携セミナー」が開催されました。

このセミナーは中小企業と大学等の連携により商品開発や課題解決を図ることを目的として，産学連携組織の「KC みやぎ 21 推進ネットワーク」が開催したもので，当日は気仙沼市内の事業者など約 20 人が参加しました。

セミナーでは，東北大学大学院工学研究科の堀切川一男教授から「地域企業を元気にする産学連携の秘訣」と題した講演が行われ，「地域や高齢者などにしぼった方が成功率が高い」，「商品開発においては高すぎる目標設定をしないことがポイント」，などのアドバイスがありました。

（講演の様子）

気仙沼・南三陸地域で産業イベントが開催されました
（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

10 月から 11 月にかけて，気仙沼・南三陸地域の各地で産業イベントが開催され，各地で地場産品の販売展示やもちまきのほか，地域ならではの催しが行われました。

10 月 23 日に開催された「第 32 回気仙沼市産業まつり」では 90 のブースが出展したほか，気仙沼が水揚げ日本一を誇る「気仙沼メカジキ鍋」や，焼きたてのサンマ定食を会場でいただける「市場で朝めし。」など，来場者は気仙沼の「食」を存分に味わっていました。

10 月 30 日に開催された「南三陸町産業フェア」では，さまざまなイベントに合わせて恒例の福興市も同時開催され，多くの人で賑わいました。さらに同日，三陸自動車道志津川 IC の開通式典が行われ，仙台圏と気仙沼・南三陸地域が初めて高速交通体系で結ばれることとなりました。

11 月 6 日には，「気仙沼市本吉産業まつり 2016」が開催されました。会場では，地元食材を使った料理コンテスト「『食』おらほの一番グランプリ」の最終審査が行われ，来場者の試食・投票の結果グランプリが決定しました。

いずれのイベントも大盛況で，気仙沼・南三陸地域の実りの秋を感じられるものとなりました。

（大抽選会の大賞とホヤぼーや）

（「『食』おらほの一番グランプリ」最終審査の様子）